

風まち・潮まち・港町

みたかく通志



●なんでも伝言板
大長檸檬酒がダブル受賞
豊町観光協会会員募集のご案内



●ゆたかまちの味じまん
ボリュームたっぷり、おふくろの味
「とよちゃん 満腹弁当」

●中村省介さんは
根っからの鍛冶職人、
島の発明王だった。

御手洗のエジソン

●特集
御手洗と薩摩藩

●御手洗ものがたり

豊町商工会

高麗

みたらい通り

2004.2.№13

春の陽さしが日一日と暖かさを感じる季節となりました。みたらい通りには、いつも格段の「ご声援」と「支援を賜りまして誠にありがとうございます。厚く厚く御礼を申し上げます。今年は重伝選定10周年を迎えます。現在記念イベント実施に向けて検討中です。呉市と合併法制定協議会が進展している段階で、観光事業・重伝事業は合併後も継続して事業が進められます。大長港の観光棧内板も新しく立派なものに変わり、常盤通りの街灯も部分的にはあります。設置され、当地が偲ばれる情緒を感じます。観光農町の飛躍に益々尽力しなければとの思いを強めております。本年4月からよいよ観光協会が活動いたしますと同時にみたらい通りの観光協会が継続し発行することとなりました。内容の充実を計り引き続き「愛読」ご支援いただけます様お願ひいたします。

(豊町商工会会長 村尾征一)



(写真上) 話題の大長レモン酒がこのたび全国優良ふるさと食品「トケール農林水産省」で総合食料局長賞を受賞。昨年11月のひろしまグッドデザイン賞に続いての受賞。これを機に全国に「ファンが拡がりますよつて」。(写真中) 「やはり自分で作った道具がいちばん使いこなす」と愛用のボール盤を操作する中村省介さん。

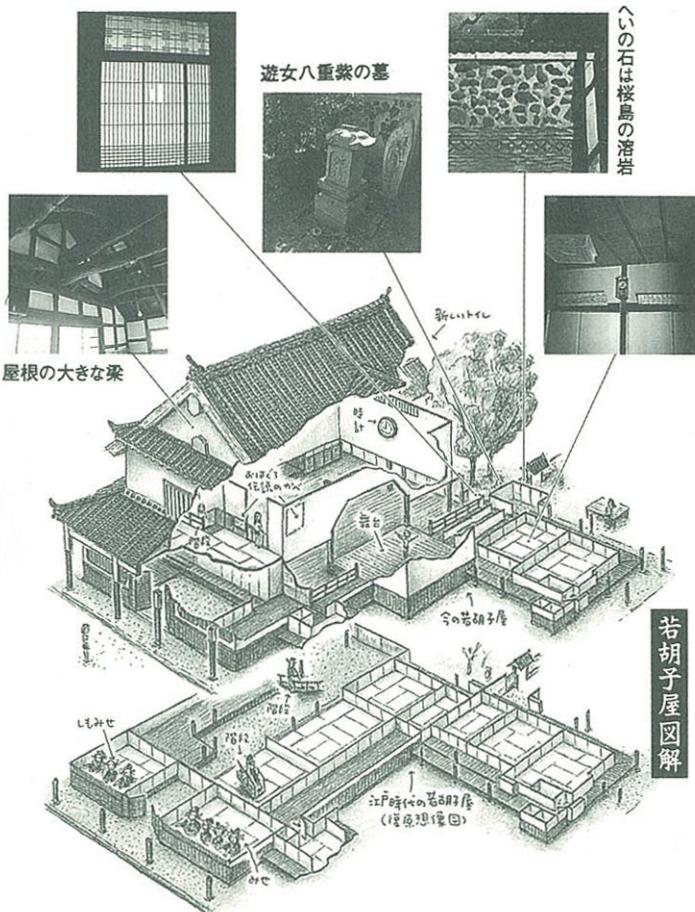
(写真下) 島の名物弁当「どよちゃん弁当」は愛情こもったちふくろの味。お昼前はいらっしゃるどおり大忙し。

[表紙の写真]

御手洗の鍛冶職人中村省介さんは何でも自分でつくる島の発明王。鍔や鎌はもちろん、索道やみかん蔵の昇降機…などたくさんの道具をつくってきた。中村さんが手にしているのはペットボトルを再利用した「鳥おどし」。

御手洗ものがたり⑬

屋久杉、ヒヨンの木、桜島の溶岩…。
御手洗と薩摩藩の深いつながり。



若胡子屋は薩摩藩と密接な関係があったと思われ、江戸時代には薩摩藩のお留め材の屋久杉が、内装に使われている。「みたらし大図解」より

購入資金として（一万両の金を貸し、その返済方法として、毎年、米一万石づつ返済すること、利息は年八朱と定め、その受け渡しの場所を御手洗港と決めた。その後、米だけでは返しきれなかつたと見え、広島藩から、米・銅・鉄・織り綿などをもって返済している。

豊町史資料編・御手洗港芸薩両藩交易港に設定の事（四五二頁）によれば、文久三年八月（一八六三・明治維新の五年前）広島藩は薩摩藩に宮田権三郎と会計吏を派遣した。そこで協議を尽くした結果、薩摩藩は広島藩に（軍艦

での、つまりこれは幕府に内緒で行つた密貿易の談合を書いたものである。密貿易に薩摩藩が御手洗を利用したのは、薩摩藩の船宿があつたので（本文編三六七頁）密貿易が簡単に行われたとは思えないが、この堂々たる密貿易（？）ぶりから想像して、御手洗において薩摩藩の威勢がよほど強かつたのではないかと思われる。

七卿館や若胡子屋の裏座敷に、当時は御留材といって、薩摩藩の重要な貿易商品であった屋久杉がふんだんに使われていたり、ヒヨンの木も鹿児島から運ばれたのであろうと言われていることなどからも、薩摩藩がいかに御手洗を重視していたかが想像できる。そう云えば、「若帳」のあつた三軒長屋の裏手に、人家の真ん中にもかかわらず一基の墓がある。その墓には薩州生・二階堂十郎兵衛行登・享保二丁酉七月廿三日と彫られている。

享保と云えば近松門左衛門によつていわゆる「心中物」と呼ばれる世話狂言がたくさん発表された年代であるが、本来、遺体なり遺髪なりをもつて帰り、薩摩に建てるべき藩士の墓が御手洗にあるのはなぜだろうか。この墓の背後にどのようなドラマがあつたのだろうか。さまざまな想像力を掻き立ててくれる墓である。

（長浜要悟）

〔特集〕

江戸時代より刀鍛冶の流れを汲む、中村省介さんは根っからの鍛冶職人、島の発明王だった。

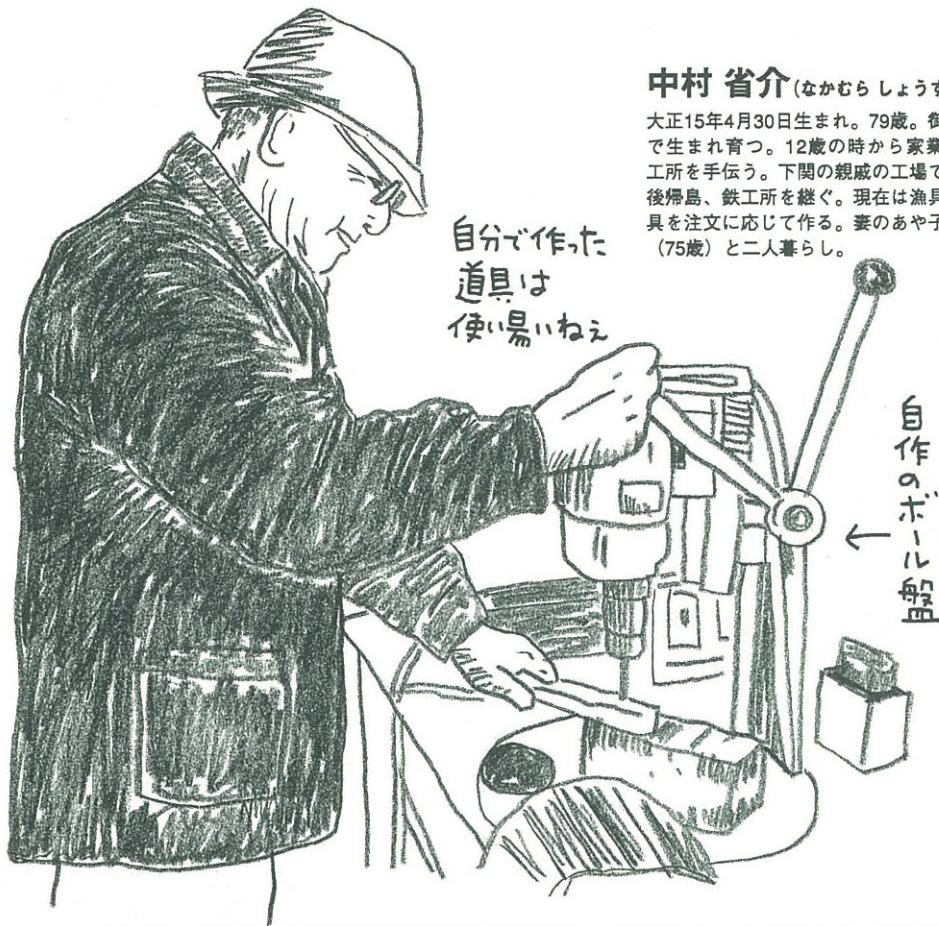
御手洗のエジソン

中村 省介(なかむら しょうすけ)

大正15年4月30日生まれ。79歳。御手洗で生まれ育つ。12歳の時から家業の鐵工所を手伝う。下関の親戚の工場で修業後帰島、鐵工所を継ぐ。現在は漁具・農具を注文に応じて作る。妻のあや子さん(75歳)と二人暮らし。

自分で作った
道具は
使い易いねえ

自作の「ホール盤



御手洗の歴史と共に歩んだ
鍛冶屋さん

島に雪の舞う寒い日、住吉神社を通り過ぎ、更に歩いて行くと、煙を吐いている工場が見えた。冷たい風に流れる煙は工場群のそれではなく、暖かい、なつかしいストーブの煙だ。

「今日は寒いですのお、まあ、ストーブのそばへ座りんさい」。

薪ストーブに、たきぎを焼べながらイスを勧めてくれるのは、中村鉄工所の中村省介さん。工場のなかは中村さん手作りの物であふれている。円筒型の薪ストーブは、まだ作れるうちに

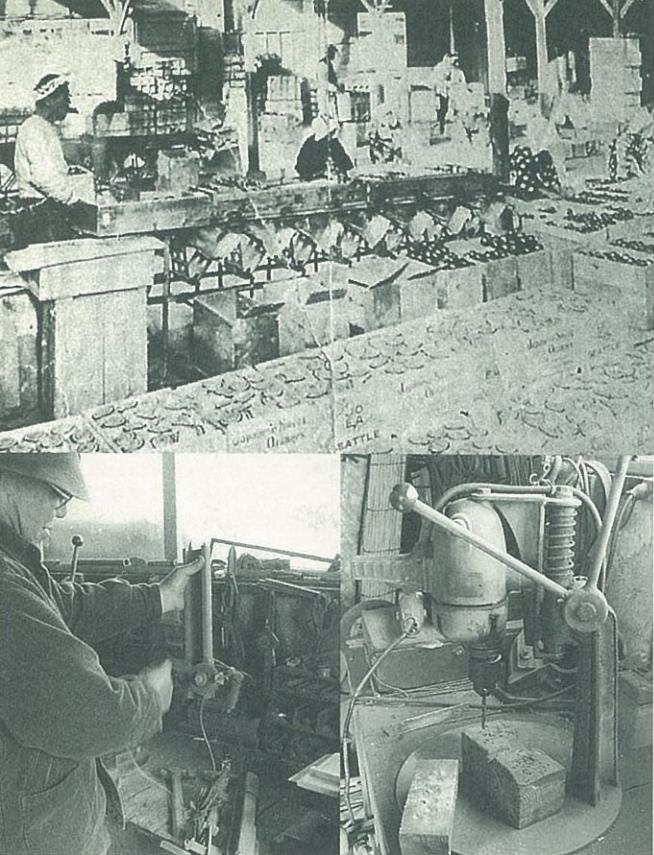
と3年前に製作。座っているイスや、道具まで自分の使い易いように作ってしまう。鉄を扱うようになつてお祖父さんから3代目。鍛冶屋さんで先祖を辿つてみると刀鍛冶にはじまつて、なんと12代になるそうだ。「おじいさんは包丁を、よお打ちよつたです。島で包丁を打つ鍛冶屋は3軒あつたなかで氏神さん(大長の宇津神社)に奉納しよつたのはウチだけです」。当時、港町で名を馳せた御

昔はみかんを山から
降ろす「索道」をようけ
作ったもんです。

同じように見えて、
使う人によつてぜんぶ
カタチが違うんですよ。



昭和8年、中村鉄工所の前身、「菊一製作所」で開発した果実選別機の試作機。
当時は画期的な発明だった。手前の木箱には輸出用のみかんが…。ひとつひとつ
包装されている。



右／愛用のハンディタイプのドリルを台に固定し、レバーを取り付けた特製小型ボール盤。とても使い易い。
左／みかんの倉庫で使われていた昇降機も中村さんが開発した。



右／住吉神社近くにある中村鉄工所。入口横のウインドウには手作りの農具がズラリと並ぶ。
左／平歛ひとつとっても用途に応じて、カタチ、サイズいろいろある。



「昔はこうして打つとつたんよ」と鍛冶仕事を再現してもらつた。奥さんと一緒に二人掛け合いで打つていたそうだ。手についているヤツトコや金ヅチこれらの道具も中村さんはすべて自分でつくる。

トッテントン夫唱婦隨

昭和25年、結婚を機に奥さんのあや子さんも中村さんの仕事を手伝う。「施盤機やらしよつたですよ。けつ

手洗には鍛冶屋が数件あった。中村さんも船のエンジンになる「焼玉」を磨く仕上げの仕事を小学6年頃から手伝つたそうだ。「あの頃は子供も、よう家の手伝いをしようつたですけね。農家の子は畑仕事。ウチは鉄工所ですけえ、学校から帰つたらすぐ工場に行つて手伝いよつたです。親父の頃は、船の仕事が多かつたですが、発明好き言うんですかね。特許もよけえとつたんですよ」。みかんの選果機を日本で初めて発明したのも中村さんのお父さんだ。お父さんの頃は工員や見習い工を十数名使ひ仕事をしていたが、時代の流れで仕事の内容も変わり、中村さんが鉄工所を継いだ終戦後は主に、みかんの作業用農業機械の製作になり、中村さん一人で鉄工所の仕事を続けた。

みんなの役に立つ道具をつくるのが好きなんです。図面なんかないんです。考えたものがカタチになつて喜んでくれる人がいる…それがまた嬉しい。



魚を突く道具

通称「ヤス」。フォーク状になった鉄製のモリを柄につけて水中の魚を捕らえる道具。



タコを捕る道具

隠れたタコを引っかけたり、張り付いた吸盤をはずす時などに使う。通称「タコカギ」。



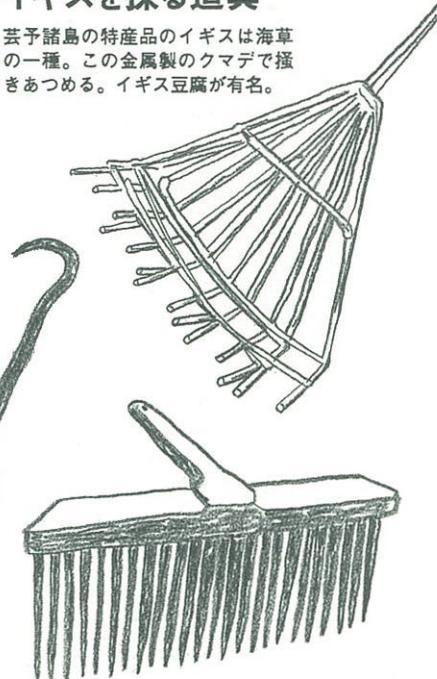
カキ打ちの道具

殻つきカキを割ったり、岩場のカキを探る道具。カキ打ちの必需品。中のカキを傷つけないよう割るには技がいる。



イギスを採る道具

芸予諸島の特産品のイギスは海草の一種。この金属製のクマデで搔きあつめる。イギス豆腐が有名。



天草を探る道具

トコロテンや寒天の原料となる天草を探る道具。金属製の大きなクシのような刃でこさげとるのだそうだ。

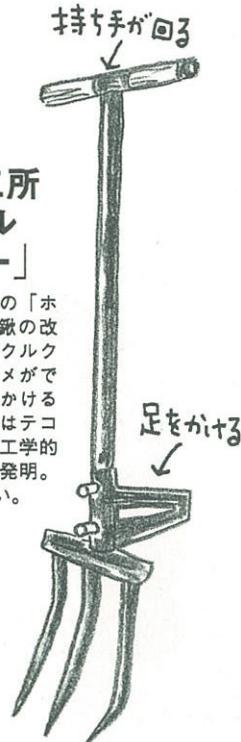


畑でよく見かけるペットボトルを使った鳥おどし。ただエジソン中村の手にかかるれば、ごらんのとおりスッキリとしたスタイルに大変身。少しの風でもクルクルとまわる。

「こうええ仕事をやりよりました」。中村さんは奥さんと二人三脚。娘さん二人を育てる頃はみかんのいい時で、「索道」や「モノラック」、「みかん蔵の昇降機」と、次々にアイデアを出し、お客さんの使い易い、いい物を作り出した。お祖父さんの仕事を見、お父さんの仕事を手伝いながら育った中村さんは根っからの鉄の職人だ。「お客様の注文をよう聞いて話の端々も漏らさんよう頭の中に入れといて作るんです」。設計図はない。全て中村さんの頭の中。「専門の学校に行つたわけじやありませんからね。お父さんの仕事を見て覚えていったんですよ。図面は引かんけど頭の中に全部入つとるみたいですよ」施設工兼経理で中村さんを支えてきたあや子さんが答える。70歳になる前から大きな物を作るのは、設置等が難しくなり、「ヤス」、「天草採り」、「カキ打ち」等の漁具や、「草けずり」、「ホーレー」

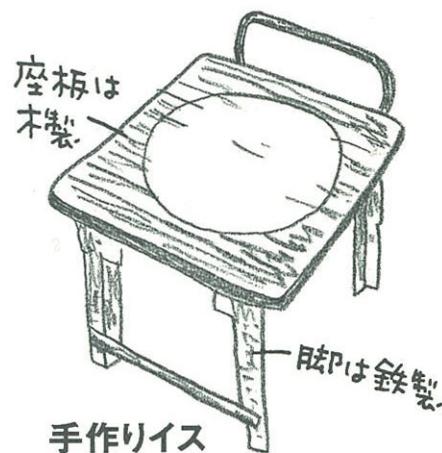
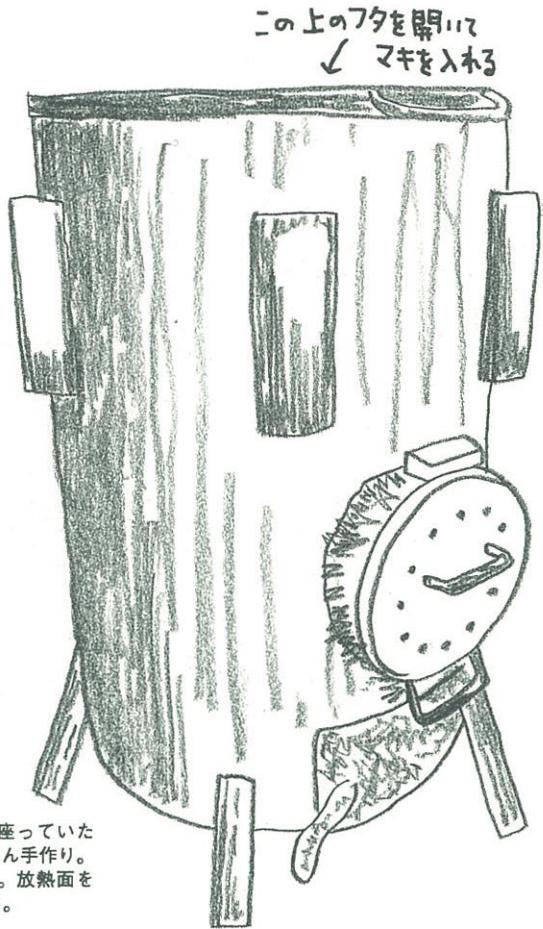
中村鉄工所 オリジナル 「ホーレー」

中村さん自信作の「ホーレー」。3本鍔の改良型。持ち手がクルクルと回り手にマメができるにくい。足をかける出っぱりの部分はテコにもなる。人間工学的にもすばらしい発明。ネーミングもいい。



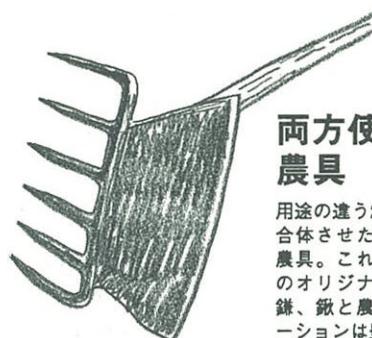
手作りストーブ

作業所のまん中にドーンと座っていた円筒型の薪ストーブ。もちろん手作り。とにかくデザインが美しい。放熱面を大きくする工夫もされている。



手作りイス

なげないイスもすべて手作り。このイスは安定感バツグン。今回の取材では撮影台として使わせてもらった。



両方使える農具

用途の違う2種類の鍔を合体させたユニークな農具。これも中村さんのオリジナル。他にも鎌、鍔と農具のバリエーションは豊富だ。



妻のあや子さんと二人三脚で歩んできた中村鉄工所。島の鍛冶屋さんはまだ現役。作業所入口にある自作農具の陳列ケースの前で。

等の農具を作っている。ホーレーの握りにはパイプが通してあり固定されていない。なぜと尋ねると「作業するのに手にまめができるけれど、まめができないように工夫できるかいのよ?」と言われて握りを変えたんですね。「使う人の身になつて考え、作る中村さんの道具は、鉄の冷たさ、硬さより、手に取つてみると暖かさが伝わってくる。物を作るのは楽しい、考えた物がカタチになり、使う人が喜んでくれるのがまた喜びになる。そんな思いで鉄製品を作り続けたが、「索道を作つたりしたお客様らも」「くなつとつてじゃし、今の流れには勝てんです。私も歳ですしねえ。感も鈍ります」。そうは言つても、御手洗で一軒がんばつてる鍛冶屋さん。毎日あや子さんと二人、工場に出て、注文の農具を作つたり、修理を手掛ける。趣味の園芸用品も工場の入口付近に並べられ販売している。トンテン音はしない鍛冶屋さんだけど、中村夫妻の柔らかい笑顔がいつもある工場は暖かい。

ゆたかまち句集

十三

鳩の目のしづかに炎ゆる抱卵季 秋光道女

花菜明り渡舟一便遅らせて

新田巣鳩

日を受けて切符売り場の蘭小鉢

下梶法子

この空の幽かに青し花の雲

進藤久子

手のひらで切る絹ごしの水温む

西本房江

春耕のついに一人のまま暮るる

閑田梅月

春愁や波が置きたる椅子一つ

元和木恵美子

風に乗り辛夷の散華ひかり合ふ

秋光利子

外つ国へ嫁す人送る花の雲

五領田幸子

三味の音の途絶えがちなる春嵐

長瀬要悟

俳句・和歌を募集中！

みなさまからの俳句、和歌を常時募集しています。

豊町に限らず、テーマは自由。

たくさんの投稿をお待ちしております。

[あて先]

〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗

豊町商工会「ゆたかまち句集」係まで

恵美須神社から夕日を
望む。向こうにオレンジラインが見える。

ゆたかまちの味じまん13 ボリュームたっぷりおふくろの味

私たちが愛をこめて
つくっています

とよちゃん弁当

家庭料理のぬくもりが
日替わり弁当に。
アシタシを
美味しいふるさとが
お届けします。

ぎつしり詰まっている。

大長港から海岸線を歩いて10分。手づくり弁当の「とよちゃん」は町並み保存地区御手洗の入口、天神地区にある。以前は喫茶店、その後2階をお座敷にして食事処として賑わった。気どらないおもてなしは、御手洗の家庭料理が手軽に味わえる店として、島の人たちや観光客のいこいの場所だった。ここを訪れた有名人も多いと聞く。ただ現在はお弁当と惣菜の営業のみ。「本当は以前のように2階も食事ができて宴会やパーティーなどに使ってもらえば……と思つているのですが、今は主人もいないし、当分はこのスタイルでやつていいこうと思つています」と語る店長の築山トヨコさんは、以前本誌でもご紹介した御手洗の大工さん築山克口さん(元乙女座の映写技師助手)の奥様だ。

残念ながら昨年他界された。業務用の冷凍食品や加工品は一切使

わない・すべて手づくり、しかも日替わり。毎日お弁当や惣菜が届くのを楽しみにしているファンが島にはたくさんいる。「宅配サービスはオープンのときからだから、もう12年ずっと毎日続けているんですよ。最初は日替わりメニューの献立を考えるのがたいへんでしたが、喜んでくれる人がいるというのは嬉しいです。いつそのこと移動販売車でも導入したらどうかと生前、主人にもよく言われたもんです」気さくで明るく、人のお世話やもてなすことが大好きなトヨコさんがつくる「とよちゃん弁当」は愛情こもった島のおふくろさんの味。これからも毎日ずっと続けていただきたい。この「とよちゃん弁当」はすべて予約制、ご希望の方は前日までにご連絡を。お願いす



とよちゃん満腹弁当 600円



とよちゃん弁当 500円

日替わり弁当はこの2種類。野菜天ぷら、魚フライ、コロッケに身だねごはん、ボーテサラダ、酢のもの…。この品揃えこのボリューム。どちらもおかずの種類とテン盛りのじょほんの量に驚いてしまつ。



上／「とよちゃん」を支えるたのもしい2名のスタッフ。下川忠子さんと中本千春さん、お揃いのまっ赤なエプロンでできている。



左／島の人気者「とよちゃん」こと築山トヨコさん。いつも笑顔がたえない。お弁当の「とよちゃん」

☎ 08466-6-2539(要予約)



ゆたかまちなんでも伝言板



優良ふるさと食品
中央コンクール

農林水産省
総合食料局長賞
受賞



HIROSHIMA
GOOD DESIGN

ひろしま
グッドデザイン賞受賞



豊町の特産品「大長樽樽酒」がこのたび、(財)食品産業センター主催の優良ふるさと食品中央コンクールにて農林水産省総合食料局長賞を受賞。(国産農林產品利用部門)このことは町ぐるみで産品へ取り組みや商品としてのレベルの高さ、販売実績が認められたもので、文字通り優良ふるさと食品として、「大長樽樽酒」が全国で認められたということになります。

「大長樽樽酒」は平成12年、13年と試験をくり返し、14年2月「重伝建を考える会」や町内会の有志、役場職員が大長や久比の篤農家の畑でレモン採取、沖友の農産加工センターで絞ったジュースを竹原の中尾醸造株でお酒にしてもらつたものです。14年の12月に初めで商品が800本でき、これはあつという間に売り切れてしまつて、

●喜びニュース！・曲豆町の特産品
大長樽樽酒がダブル受賞!!

優良ふるさと食品中央コンクール

●ひろしまグッドデザイン賞受賞



「白百合会」の皆さん。
大長レモン酒まつりにて。

今ではマボロシのお酒になつてしまつた。15年になるともつとたくさんの方々が需要となり、農家から購入し、

食品研究グループの「白百合会」の皆様や、パートの人たちに委託、絞つたものから約3万本のお酒を作り、現在までに2万本が売れています。

また、「大長樽樽酒」と書いてある、ちょっとレトロな感覚のラベルも、昨年11月 広島市・(財)広島市産業振興センター主催 第8回ひろしまグッドデザイン賞パッケージ部門・奨励賞を受賞しました。まさにダブルの受賞とあって商工会としても嬉しい限りです。尚、この大長樽樽酒は全国推奨観光土産品推奨品としても認定されています。



昨年11月ひろしまグッドデザイン賞受賞で盛り上がる豊町柑橘商品計画研究所のスタッフたち。



御手洗の新しい観光名所「おいいらん公園」。百数十基の遊女墓が港の見える丘公園そばに移設された。

「観光の町、ゆたかまち」をめざし、豊町における観光の核となる「観光協会」を設立いたしました。さあ、ともに新しい観光の形を、力を合わせ作り上げていきましょう。どうかこの主旨をご理解頂き、一人でも多くの人にご入会ご協力頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

年会費 1口1000円
(お一人様何口でも可)
お申込・お問い合わせは
「潮待ち館」観光交流センター
TEL/FAX 08466162278



御手洗の観光名所のひとつ、江戸時代の「高どうろう」と干砂子波止。

●みんなで盛り上げよう
曲豆町観光協会
た、だ、ま
会員募集集中！！

●みんなで盛り上げよう

おたより

読者の広場



■…読者からのお便り

★…編集室からのお返事（今回はNが担当）

たくさんのお便りありがとうございます。

「みたらい通志」の感想や、
豊町を訪れた感想・豊町への希望なども
お便りください。お待ちしています。



「風情があつていい」と
町内外で大好評。

■ 読売旅行の日帰りツアーで始めて御手洗へ行きました。昭和生まれの私達5人グループ子供時代にタイムスリップした気持ちは致しました。軒先の一輪挿しどんなに皆の気持ちをなごませて戴けた事でしようか、有難うございました。ただ、私だけの思いいかと考るのですが道で出会う島の人達と「今日は」と旅をする人達が皆挨拶をかわすと嬉しいなと思いました。親切にガイドとして戴いて良い思い出のページを作る事が出来ました。又足を運びたいと思います。

（竹村文子・廿日市市）

★すだれの一輪挿しで玄関を飾ること、観光に来ていただけに声をかけること（これを町民みなガイドと称しています）情報誌（みたらい通志）のファンになつていていた大切なことがあります。正確に理解し、褒めてくださつて、天にも昇る心地です。

（N）

■ 先日は御手洗港を詳しく案内していただきまして、何とお礼を申し上げたら、感謝の気持ちでいっぱいです。閉館日の乙女座も見学させていただき、展示資料の中に昔瀬戸内海を船で石炭を運んでいたという内容を読み、主人の94歳になる祖父が「わしの親父は船乗りで、昔は石炭を運びよったんじゃ」と話していましたことが、ここで結び付きそれがまた良い思い出となりました。（中略）終始お優しい笑顔で接してくださり、あつた間に時間が過ぎ、私共にとりましては、本当に心地良い時間を過ごさせていただきました。

（竹村文子・廿日市市）

花を活けて下さっていることや、時計店の中に入れていたときお話を聞かせていただけたこと、若胡子屋の中に入れていたときお歯黒にまつわる遊女の話や屋久杉のお話を聞かせていただいたこと、歴史の見える丘公園でのお話、船宿跡、遊女のお墓などは、個人で來ていたら場所がわからなかつたと思います。

（みたらい通志の感想）

91歳のお母様と御手洗を観光された大崎さんより、お便りを頂きました。

（N）



■ 先日は歴史のみえる丘公園で記念撮影をする大崎さん一家と木村さん（右から2番目）。



（91歳の大崎さんのお母さま）



■ 編集後記

御手洗は物流と遊興の町であつたと人も言い、自分でもそう思つていたのだが、今回中村さんの特集をしてみて、第二次産業の町という側面も色濃くあつたことを思い知つた。そして、もの作りというの一つの時代でも素敵だということ。（N）

■ 先日は思いもよらない楽し
く想い出深い一日旅行となり、
これも皆様方のおかげと喜ん

様が努力されているんだと有難く思いました。御手洗は重建地区でありながら「土産物屋街」になつていないといふ10ページのコメントも同感でこれからも変な観光地にはなつてほしくないと思います。

（斎藤容子・小田原市）

★「ちょっと感じのいい町づくり」がわたしたちにできることだと思っています。背伸びをせず、欲張らず、ゆつくり進んで行きます。まさにスマーライフそのものですが、そのやり方が、御手洗らしいとも思っています。またおいでください。

（N）

本当にありがとうございます。母も身を起こして車の窓から外の景色に見入ります。母も元気で、案内して下さった内容も詳しく聞いているうちに次第に興味深く聞かせてもらいました。病院に帰った母も先生が驚く程元気に過ごしています。私も以前より果たし得なかった「母を御手洗に連れて行く」という念願が叶い肩の荷が降りた気持ちです。本当に母が幼い頃の追憶に浸り「もう一度行きた」と言つ通りいい處でした。

（大崎禮子・岡山市）

★大崎さんより手紙を受け取られた松本さんより紹介頂きました。ありがとうございます。

（N）

えど まちな

江戸の町並み



MITARAI
since 1666

寛文6年(1666)町屋敷割りを藩より許され、
人が建ちはじめる

正徳3年(1713)町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
宝暦9年(1759)常盤町を中心とした大火(11月)

文化3年(1806)伊能忠敬が御手洗を測量した
(3月1~3日)

5年(1808)町庄屋が独自に置かれる(初代柴屋)

文政9年(1826)シーポルトが寄港する

11年(1828)千砂子波止の築造(11~12年)

11~13年住吉神社造営(大坂 鴻池善右衛門寄進)

(1828~30)※千砂子波止の築造以後、
住吉町の埋立てが進んだ

嘉永6年(1853)吉田松陰が長崎行きの途中に立ち寄る

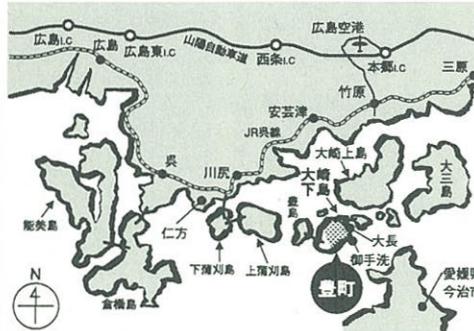
元治1年(1864)三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅
(竹原屋)に寄寓する(7月22日~24日)

明治12年(1879)御手洗町が大長村より独立

昭和31年(1956)1町2村合併して豊町となる

平成6年(1994)国選定重要伝統的建造物群保存地区
となる

豊町(御手洗)への交通のご案内



- 今治から大長まで…高速艇で30分
- 竹原から大長まで…高速艇で30分
- 仁方から大長まで…高速艇で30分
- 三原から大長まで…高速艇で55分
- 呉から大長まで…高速艇で1時間
- 広島から大長まで…高速艇で1時間25分
(または)高速バスと高速艇で約2時間
- 広島空港から大長まで…
ジャンボタクシーと高速艇で約1時間30分
- 大長から御手洗まで…バスで3分
(または)徒歩15分
- 大長から久比まで…バスで約10分
(または)レンタサイクルで20分
- 大長から沖友まで…バスで10分
(または)レンタサイクルで25分

※情報誌「みたらじ通志」は広島市本通り「夢ぶらざ」にも置いてあります。

プレゼント
コ・ト
ボリュームたっぷり、
あふくろの味 おいしいよ!

とよちゃん
弁当

をペア3組さまに!



とよちゃん満腹弁当

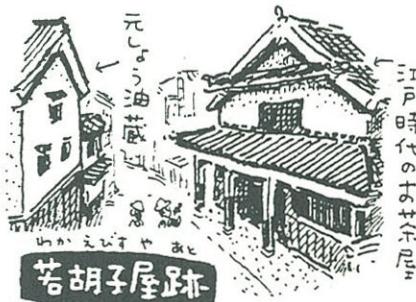
本誌ゆたかまちの味じまん(P.8)でご紹介した、ボリュームたっぷりの
日替わり弁当「とよちゃん満腹弁当」をペアで3組さまにプレゼント!!(ご
当選の方にはお弁当の引き換券をお送りします)

■応募方法/ハガキに「とよちゃん満腹弁当希望」と書いて、住所・
氏名・年齢・職業・電話番号、そして「みたらじ通志」に対するご
意見、ご感想をお書き添えのうえ、下記までお寄せください。抽選
で3名様にプレゼントいたします。当選は発送により発表にかえさ
せていただきます。

■あて先/〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗

豊町商工会「みたらじ通志」プレゼント係

■締め切り/平成16年9月30日(当日消印有効)



観光案内(観光の問合わせ・ガイド申込等)
■潮待ち館・観光交流センター
TEL・FAX 08466-7-2278